

地域の工業高校生を対象とした工事見学会を開催しました

架かる前の橋を間近に見ることができ良かったです。今回頂いた資料には、橋の複雑な図があり、すごいと思いました。私たちが学んでいることが将来この様に役立つと知り感動しました。自分の将来の進路を考えることについて、大変役に立ったと思います。

多治見工業高等学校
電子機械科 3年
小出 藤矢君



日本に2台しかないドイツ製のクレーンは、でかくてすごかったです。分解して運ぶところを見てみたいと思いました。とても勉強になったし、貴重な体験だったので、将来に生かせるように努力していきたいです。

可児工業高等学校
建設工学科 2年
瀬崎 美穂さん



新鮮な気持ちで見ることができました。大型クレーンの組み立てには、さらに小さなクレーンがいることも勉強になりました。見学会を今後も設けてもらいたいです。

可児工業高等学校
建設工学科
織田 伸男先生

生徒達も、知らなかった世界へ大きく視野を広げることができたと思います。今後とも機会がありましたら、よろしくお願いたします。

多治見工業高等学校
見学職員一同



新鮮で興味深かったし、感動も大きかったです。工事は、さまざまな所の鋼材で、多くの人の手によって作られている大変なものだと知りました。現場の工事開始は、7月からなのに、2月から4月までの設計や原寸の工程が長く、工事が大きなものであることを感じました。クレーンは圧巻で、一機で橋を撤去できるのだろうかと思いました。最大吊上荷重が650tで橋の重さが118tと聞き安心しました。

多治見工業高等学校
電子機械科 3年
堀 隼大君

橋の強度を上げるために有効な形状、鋼材の種類、適正トルクで締め付けるために工夫されたボルトなど、普段の基礎の学習が実際に活かされていることを実感しました。すべてのモノ作りはまず、綿密な設計と計画があり、そこから実物を製作していくと思います。この貴重な経験を、今後の進路選択や学習の取り組み方などに活かしたいと思います。

多治見工業高等学校
電子機械科 3年
西崎 雄介君

見学は、生徒にとっていろいろな体験や発見があり、たいへん有意義であったと思います。見学会を今後も設けてもらいたいです。現場の調整、資料の作成、バスの手配など、本当にありがとうございました。

可児工業高等学校
建設工学科
後藤 厚先生

トンネルや道路の現場作業は見学させてもらったことがありますが、道路の上の橋架けは初めてみました。しかも、日本に2台しかない巨大クレーンに乗せてもらった時はとても大きいことを実感できて印象に残りました。橋を架けるまでの過程の説明を聞いた時、多くの作業が行われ、多くの人が関わっていることが分かりました。しっかり進路のことを考えていきたいと思います。

可児工業高等学校
建設工学科 2年
岩島 宏樹君

